

平成 26 年 11 月 23 日 (日) 施行

第 176 回 全経簿記能力検定試験 1 級 会計 解説

第 1 問

1. 企業会計原則 第一 一般原則 六
2. 企業会計原則注解 [注 4]

第 2 問

1. 荷為替手形の引き受けは為替手形の引き受けと同じ処理をする。
2. 未着品売上 ¥325,000 の計上と同時に、未着品 ¥260,000 を仕入勘定に振り替える。
3. 勘定科目に委託買付勘定がないため、これを使用しない。
買付計算書より、手付金 ¥50,000 を前渡金勘定、立替残金 ¥371,650 を買掛金勘定で処理する。
4. 欠損額に対して、資本準備金の取崩額が上回っているため、欠損てん補分との差額 ¥200,000 は資本準備金減少差益勘定を用いる。
5. 投資有価証券の取得価額 $¥3,896,000 + ¥12,960 = 3,908,960$
購入日 7 月 1 日直前の利払日は 3 月末なので、ここから経過した 3 ヶ月分の利息を負担する。
 $¥4,000,000 \times 2.25\% \times (3 \text{ ヶ月} / 12 \text{ ヶ月}) = ¥22,500$
6. 仕入時 $\$ 33,500 \times @ ¥103 = ¥3,450,500$

(借) 仕	入	3,450,500	(貸) 買	掛	金	3,450,500
-------	---	-----------	-------	---	---	-----------

決算時 為替差損益 $\$ 33,500 \times (@ ¥103 - @ ¥101) = ¥67,000$

(借) 買	掛	金	67,000	(貸) 為	替	差	損	益	67,000
-------	---	---	--------	-------	---	---	---	---	--------

前期決算時の買掛金残高： $¥3,450,500 - ¥67,000 = ¥3,383,500$

決済額 $\$ 33,500 \times @ ¥102 = ¥3,417,000$

為替差損益： $¥3,383,500 - ¥3,417,000 = \triangle ¥33,500$ (為替差損)

第 3 問

【工事進行基準】

①A 工事契約

A 工事は前期に着工している。前期の工事完成高計上額は

$$400,000 \text{ 千円} \times \frac{150,970 \text{ 千円}}{150,970 \text{ 千円} + 92,530 \text{ 千円}} = 248,000 \text{ 千円}$$

当期に完成しているため、完成工事高計上額は

$$400,000 \text{ 千円} - 248,000 \text{ 千円} = 152,000 \text{ 千円}$$

当期発生工事原価は 95,230 千円

②B 工事契約

B 工事は当期に着工している。当期の工事完成高計上額は

$$360,000 \text{ 千円} \times \frac{88,150 \text{ 千円}}{88,150 \text{ 千円} + 116,850 \text{ 千円}} = 154,800 \text{ 千円}$$

当期発生工事原価は 88,150 千円

①②より

完成工事高は $152,000 \text{ 千円} + 154,800 \text{ 千円} = 306,800 \text{ 千円}$

完成工事原価は $95,230 \text{ 千円} + 88,150 \text{ 千円} = 183,380 \text{ 千円}$

よって完成工事総利益は $306,800 \text{ 千円} - 183,380 \text{ 千円} = 123,420 \text{ 千円}$

【工事完成基準】

工事完成基準は、完成時に完成工事高を計上する。当期に完成した工事は A 工事である。

完成工事高は A 工事の 400,000 千円

完成工事原価は $150,970 \text{ 千円 (前期分)} + 95,230 \text{ 千円 (当期分)} = 246,200 \text{ 千円}$

完成工事総利益は $400,000 \text{ 千円} - 246,200 \text{ 千円} = 153,800 \text{ 千円}$

第 4 問

姫路会社の諸資産の時価は 192,800 千円、諸負債の時価は 114,200 千円より、

受入純資産は $192,800 \text{ 千円} - 114,200 \text{ 千円} = 78,600 \text{ 千円}$

交付株式は $4 \text{ 千円} \times 19,500 \text{ 株} = 78,000 \text{ 千円}$ および、同時に現金 1,400 千円を交付しているので、

取得原価は $78,000 \text{ 千円} + 1,400 \text{ 千円} = 79,400 \text{ 千円}$

のれん： $79,400 \text{ 千円} - 78,600 \text{ 千円} = 800 \text{ 千円}$

新株の払込金額の 2 分の 1 を資本に組み入れないので、

資本金：39,000 千円

資本準備金：39,000 千円

よって、合併受入仕訳は

(借) 諸 資 産	192,800	(貸) 諸 負 債	114,200
の れ ん	800	※ 諸 資 産	1,400
		資 本 金	39,000
		資 本 準 備 金	39,000

※二条会社が交付した現金

第 5 問

〔資料 2〕 検討事項

1. 小口現金の処理

(借) 旅 費 交 通 費	350	(貸) 小 口 現 金	750
消 耗 品 費	160		
雑 費	240		

2. 仮払金の処理

(借) 建 設 仮 勘 定	1,500	(貸) 仮 払 金	16,410
退職給付引当金	1,050		
仮払法人税等	3,180		
仮払消費税	10,680		

3. 仮受金、消費税の整理

(借) 仮受金	14,870	(貸) 仮受消費税	14,870
---------	--------	-----------	--------

消費税

(借) 仮受消費税	14,870	(貸) 仮払消費税	10,680
		未払消費税	4,190

4. 仕入割引は営業外収益として処理しなければならないので、仕入から控除した処理を修正する。

(借) 仕入	2,270	(貸) 仕入割引	2,270
--------	-------	----------	-------

[資料3] 決算整理事項

1. 貸倒引当金の設定

受取手形と売掛金期末残高は 10,210 千円 + 35,290 千円 = 45,500 千円

45,500 千円 × 1.2% = 546 千円

差額補充法より、貸倒引当金繰入額は 546 千円 - 60 千円 = 486 千円

(借) 貸倒引当金繰入	486	(貸) 貸倒引当金	486
-------------	-----	-----------	-----

2. 売買目的有価証券の評価替え

×会社株式 (3.3 千円 - 3.2 千円) × 1,500 株 = 150 千円

△会社株式 (2.5 千円 - 2.7 千円) × 2,000 株 = △400 千円

(借) 有価証券評価損	250	(貸) 有価証券	250
-------------	-----	----------	-----

3. 期末商品の評価

@2.4 千円	商品評価損なし	棚卸減耗費	商品評価損 正味売却価額 > 取得原価 ⇒ 商品評価損なし 棚卸減耗費 @2.4 千円 × (2,770 個 - 2,740 個) = 72 千円
@3.2 千円			
			2,740 2,770 個
@4.6 千円	商品評価損なし	棚卸減耗費	商品評価損 正味売却価額 > 取得原価 ⇒ 商品評価損なし 棚卸減耗費 @4.6 千円 × (1,320 個 - 1,310 個) = 46 千円
@6.0 千円			
			1,310 個 1,320 個

帳簿棚卸商品

a 商品 2.4 千円 × 2,770 個 = 6,648 千円
b 商品 4.6 千円 × 1,320 個 = 6,072 千円 } 12,720 千円

商品評価損…なし

棚卸減耗費…72 千円 + 46 千円 = 118 千円

(借) 仕入	12,030	(貸) 繰越商品	12,030
繰越商品	12,720	仕入	12,720
棚卸減耗費	118	繰越商品	118

5. 減価償却

建物（定額法）残存価格ゼロ

$(35,000 \text{ 千円} - 0 \text{ 円}) / 40 \text{ 年} = 875 \text{ 千円}$

備品（定率法）償却率 0.393

$(10,600 \text{ 千円} - 5,840 \text{ 千円}) \times 0.393 = 1,870.68 \text{ 千円} \rightarrow 1,871 \text{ 千円}$

(借) 減価償却費	2,746	(貸) 建物減価償却累計額	875
		備品減価償却累計額	1,871

6. 商標権の償却

有効年数 10 年（120 ヶ月）のうち前期末で 1 年 4 ヶ月（16 ヶ月）償却が終わっている。

残存期間 104 ヶ月で 1,560 千円なので

当期の商標権償却額は $1,560 \text{ 千円} \times (12 \text{ ヶ月} / 104 \text{ ヶ月}) = 180 \text{ 千円}$

7. 支払利息

1 年の利息は $6,000 \text{ 千円} \times 4.0\% = 240 \text{ 千円} \rightarrow 20 \text{ 千円} / \text{月}$

利払日は 12 月 1 日の借入日後半年ごととあるので、5 月末と 11 月末（後払い）である。

残高試算表の支払利息は借入日から直近の利払日 5 月末までの 6 ヶ月の金額が記載されている。

直近の利払日からの経過月数 4 ヶ月分の未払利息を計上する。

(借) 支払利息	80	(貸) 未払利息	80
----------	----	----------	----

8. 賞与引当金

支給見積額 2,580 千円（6 ヶ月）のうち、当期に該当するのは 4 ヶ月分である。

$2,580 \text{ 千円} \times (4 \text{ ヶ月} / 6 \text{ ヶ月}) = 1,720 \text{ 千円}$

(借) 賞与引当金繰入	1,720	(貸) 賞与引当金	1,720
-------------	-------	-----------	-------

【問 2】の賞与引当金の額は 1,720 千円

9. 退職給付の積立

(借) 退職給付費用	1,460	(貸) 退職給付引当金	1,460
------------	-------	-------------	-------

〔資料 2〕2 より、当期に退職した従業員への退職一時金が 1,050 千円なので

【問 2】の退職給付引当金は $9,360 \text{ 千円} + 1,460 \text{ 千円} - 1,050 \text{ 千円} = 9,770 \text{ 千円}$

10. 費用の繰延べ

保険料のうち火災保険料 $1,320 \text{ 千円} / 60 \text{ ヶ月} = 22 \text{ 千円}$

このうち当期分は 7 ヶ月分なので残り 53 ヶ月分 $22 \text{ 千円} \times 53 \text{ ヶ月} = 1,166 \text{ 千円}$ を繰り延べる。

なお、1 年超先の保険に関するものは長期前払費用として投資その他の資産に計上する。

(借) 前払費用	264	(貸) 保険料	1,166
長期前払費用	902		

11. 法人税の計上

仮払法人税等が 3,180 千円あるので

(借) 法人税等	11,940	(貸) 未払法人税等	8,760
		仮払法人税等	3,180